

Technical Information	
文書番号	SYMC-SMG-130821-1
タイトル	Symantec Messaging Gateway Version 10.0.2-4 リリースノート
対象機器	Symantec Messaging Gateway 8300 Series
ソフトウェアバージョン	10.0.2-4
プラットフォーム	-
参照	-
問合せ先	日商エレクトロニクス株式会社 エンジニアリング本部 第三エンジニアリング部 サポート&サービスグループ E-mail: npc@nissho-ele.co.jp

■ 本書について

Symantec Messaging Gateway Version 10.0.2-4 に関する情報が含まれています。

■ 本リリースについて

SMG Version 10.0.2-4 は、従来の SMG Version10.0.1-2 のメンテナンスアップデートとなります。

■ リソース

詳細な情報は以下より入手可能です。

<メーカーマニュアル/メーカーリリースノート(日本語)>

http://www.symantec.com/business/support/index?page=content&id=DOC6543&key=53991&actp=LIST&locale=ja_JP#

<メーカーナレッジベース(日本語)>

http://www.symantec.com/business/support/index?page=landing&key=53991&locale=ja_JP

■ 新機能と強化点

- Version 10.0 の主な新機能と強化点 (Version 9.5 と比較) は以下となります。

- ・ 迷惑メールカテゴリの処理
 - 顧客固有のスパムポリシーを追加しました。
すり抜けたスパムメールや誤検知されたメールをシマンテック社に提出することにより、顧客固有のスパム定義が自動的に提供されるようになりましたが、そのスパム定義に基づくアンチスパムポリシーを適用する事が可能となります。
- ・ IPv6 のサポート
 - IPv6 を本バージョンよりサポートするようになりました。
- ・ コンテンツフィルタリングの拡張
 - 添付ファイルリスト、ファイル名、MIME の種類などの項目より、否定する条件を選択する事が可能になりました。
 - メール本文内の HTML タグをスキャンする事が選択可能になりました。
 - フィルタポリシーを評価した後の動作として、以降のフィルタポリシーを評価するかしないかを選択できるようになりました。
 - コンテンツインシデントフォルダ内のメールを承認または拒否以外にも、他の処理を選択できるようになりました。
 - コンテンツインシデントフォルダの通知テンプレートより、ユーザがインシデントの通知メッセージからインシデントの表示または修復(承認、拒否、その他の処理)をするための変数が登録できるようになりました。
- ・ 電子メールマルウェアポリシーの拡張
 - ウイルスの検出またはスパイウェアまたはアドウェアを検出した場合、コンテンツフィルタポリシーのスキャンをバイパスする処理が選択可能になりました。
- ・ 電子メールスパムポリシーの拡張
 - スパムの検出またはスパムの疑いを検出した場合、コンテンツインシデントフォルダに送信する処理が選択可能になりました。
- ・ メッセージキューの拡張
 - メッセージキューのページに、「次回の施行」と「施行の合計」の 2 項目が追加されました。
これにより次回再送する日時と再送処理回数を確認する事が可能となります。

- ・ メッセージ監査ログの拡張
 - メッセージ監査ログに、「論理 IP アドレス」が表示されるようになりました。これにより Received ヘッダから判断される最初の外部 IP アドレスを確認する事が可能となります。

- ・ 管理者パスワード紛失時におけるメール通知（仮ログイン用 URL）の機能追加
 - 管理者パスワードの紛失により管理画面にログインできなかった際、ログイン画面にある「パスワードを忘れましたか？」のリンクをクリックすると、管理画面に仮ログインするための URL が管理者宛てにメール通知される機能が追加されました。
そのリンクをクリックする事により、パスワードが紛失した状態でも管理者のパスワードを設定しなおす事が可能になります。

■ 変更された内容

- Version 10.0 で変更された内容 (Version 9.5 と比較) は以下となります。
 - ・ インスタントメッセージ機能 が削除されました。
 - ・ 管理画面のタブが【ウイルス】から【マルウェア】に変更されました。
 - ・ 管理画面からのバックアップファイル取得で、取得する項目を任意に選択可能になりました。
管理画面 > 管理 > ホスト > バージョン > バックアップタブ > 今すぐバックアップの画面から
カスタムバックアップを選択しますと、取得する項目を選択することができます。



今すぐバックアップ

今すぐバックアップを作成します。

今すぐバックアップ

バックアップデータ

完全バックアップ

カスタムバックアップ...

ポリシーのみ

設定(ポリシーを含む)

コンテンツインシデントメッセージを含む

レポートデータを含む

ログデータを含む

バックアップ先

サーバーにバックアップを格納する

FTP を使ってリモートの場所にバックアップを格納する

ホスト/IP アドレス:

ポート:

パス:

認証が必要

ユーザー名:

パスワード:

- ・ 添付ファイルリストは Premium とカスタムの 2 種類に分けられました。
Premium は編集不可能な事前定義済みの添付ファイルリストとして、カスタムは編集可能な添付ファイルリストとして提供されるようになりました。
- ・ ライセンスのインストール時に MTA サービスが再起動するようになりました。
これによりライセンスのインストール中は、メール配信が数十秒間ほど停止します。

- Version 10.0.0-7 の追加及び修正された内容は以下となります。
 - ・ メモリの使用を効率的に使うよう修正されました。これにより、bmserver プロセスのメモリ使用量が多くなる事によりメモリリソースが枯渇する問題によって発生した Brightmail エンジンや MTA サービスのクラッシュなどの改善が見込まれます。
 - ・ 管理画面>管理>ホスト>バージョン>更新タブにある「更新可能なバージョン」を選択できない問題が修正されました。
 - ・ メッセージ監査ログに表示されるログについて、送信先 MTA への接続エラーによるメール配信が遅延または失敗した時は下記【1】のログが記録されましたが、発生した状況に応じ、下記【2】と【3】のログが記録されるようになりました。

【1】今までのバージョンに記録されていたログ

421 4.4.0 [internal] no MXs for this domain could be reached at this time

【2】タイムアウトまたは無応答により、送信先 MTA への接続に失敗した場合

421 4.4.0 [internal] failed to connect: no mail servers for this domain could be reached at this time

【3】送信先 MTA への接続を繰り返したが、接続できなかったと判断した場合

Temporary delivery failure, sender: test@hoge2.com, recipient: m1@hoge3.com, Detail: 451
4.4.1 [internal] No valid hosts (too many connection failures)

- Version 10.0.1-2 の追加及び修正された内容は以下となります。
- ・ Version9.5 または Version10.0.0-6 から Version10.0.0-7 にアップグレードした後、Brightmail ログに下記メッセージが記録され、MTA サービスの起動に失敗する問題が修正されました。

【例】Brightmail ログに記録されるログ

```
CLI> tail BrightmailLog.log
```

```
:
```

```
[BrightmailScheduler_Worker-48] ERROR - Bareword found where operator expected at
/opt/Symantec/Brightmail/mta/lib/perl/Term/ReadPassword.pm line 7, near "VEOF VEOL"
(Do you need to predeclare VEOF?)
Compilation failed in require at /opt/Symantec/Brightmail/mta/lib/perl/SMS/MTA.pm line
59.
```

- ・ バージョン 9.5.1 で、LDAP ルーティングの Primary と Alternate が同じ設定である場合、LDAP ルーティングによるメール配送ができなくなる問題が修正されました。
- ・ バージョン 9.5 で、特定のブラウザ(InternetExplore7 と 8 と 9、FireFox)からコントロールセンターの HTTPS 証明書が正常に更新できない問題が修正されました。
- ・ バージョン 9.5.3 にアップグレードした後、Brightmail ログに下記メッセージが記録され、ソフトウェアパッケージのデータベースが破損する問題が修正されました。

【例】Brightmail ログに表示されるログ

```
class java.lang.NumberFormatException: For input string: "Unknown"
at java.lang.NumberFormatException.forInputString(Unknown Source)
at java.lang.Integer.parseInt(Unknown Source)
:
com.brightmail.bl.status.DashboardManager.retrieveSystemStatus(DashboardManager.java:13
3)
at com.brightmail.pl.flow.status.DashboardFlow.buildPage(DashboardFlow.java:187)
at com.brightmail.pl.flow.status.DashboardFlow.view(DashboardFlow.java:112)
:
```

- ・ 下記コマンドより SSH 通信のオプションであるブロック暗号化(CBC)を無効にして、ストリーム暗号化(RC4)にした場合、Putty から SSH 経由でコマンドラインにログインできなくなる問題が修正されました。

```
CLI> sshd-config -c off
```

【例】この問題が発生した時に Putty 上に表示されるログ

```
Couldn't agree client-to-server cipher (available: arcfour)
```

- ・ バージョン 9.5.4 以下で特定のブラウザ(InternetExplore7 と 8、FireFox3.0)からスパム検疫に格納しているメールを解放または削除の操作をした場合、それらの操作が反映されず管理画面がログオフされる問題が修正されました。
- ・ 管理画面から診断ログがデスクトップ上にダウンロードできなくなる問題が修正されました。

- Version 10.0.2-4 の追加及び修正された内容は以下となります。
 - ・ bmserver プロセスによりメモリリソースが枯渇する問題を改善するため Version10.0.0-7 と Version10.0.1-2にてメモリ使用を効率的に使うよう修正されましたが、10.0.2-4ではメモリアロケータが変更され、メモリ使用がより効率的になりました。これにより、Brightmail エンジンや MTA サービスのクラッシュによるメール遅延などの軽減が見込まれます。
 - ・ Version10.0.0-7 及び Version10.0.1-2にて、EHLO コマンド応答で RFC5321 に準拠しておらず、SMG で電子メールが受信できない問題がございました。RFC5321 ではレスポンスの一番最後の行はコード(250-xxx)と一つのスペースに続くと規定されていますが、「250 SIZE 10485760」のように RFC に準拠していなかった為、メールが受信出来ない事がありましたが、こちらが修正されました。

【例】変更前

```
220 sms139.sms8200.com ESMTP Symantec Messaging Gateway
ehlo sss
250-sms139.sms8200.com says EHLO to 10.9.114.82:3973
250-8BITMIME
250-ENHANCEDSTATUSCODES
250-PIPELINING
250 SIZE 10485760 ←「RFC5321」に規定されていない
421 4.4.2 service timed out.
```

【例】変更後

```
220 test140.sms8200.com ESMTP Symantec Messaging Gateway
ehlo
500 5.5.2 unrecognized command
ehlo sss
250-test140.sms8200.com says EHLO to 10.9.21.253:1233
250-SIZE 10485760 ←「RFC5321」に規定されている。
250-8BITMIME
250-ENHANCEDSTATUSCODES
250 PIPELINING
```

- ・ ドメインの設定が更新(追加・削除・編集)された場合、Version10.0.1まではMTAサービスが再起動する仕様でしたが、Version10.0.2からは再起動しない仕様に変更されました。

■ 日商ナレッジ

- ・ メッセージ監査ログの検索結果が最大設定値の 1000 件を超えた件数が表示される場合があります。
1 通のメールで複数の宛先が含まれている場合、To 毎に件数が表示されるために、検索結果で表示される件数は最大設定値の 1000 件を超えた件数が表示されます。
- ・ メッセージ監査ログの処理に「メッセージを中止する」と表示される場合があります。
「メッセージを中止する」とは送信元から SMG へメール送信する通信中にセッションが終了した場合に記録されます。
調査方法は、SMG が接続されている SWITCH 側にてパケットを取得後に、送信元と SMG のどちらがパケットを切断しているかご確認下さい。
SMG が切断している場合には日商エレクトロニクスにて調査させていただきます。

■ 既知の問題/注意事項

現在、Version 10.0.2-4 で確認されている問題は以下となります。
こちらに記載の内容以外の問題に関しましてはメーカーリリースノートをご覧ください。

-
- ・ 管理 → 設定 → LocalHost → SMTP タブにある[アウトバウンド非ローカルメール配信]を”MX ルックアップを使う“に設定した場合、配送キューに滞留したアウトバウンドメールが状態 → SMTP → メッセージキューの画面にある[新しい経路]に指定したリレー先に転送できません。
-
- ・ ウイルスのアクションがクリーニングで RAR 形式の圧縮ファイルからウイルスを検出した場合、圧縮内のウイルスのみ削除せず、RAR ファイル自体が削除されます。
この動作により RAR ファイル内のウイルスに感染していない正常なファイルも削除されます。
-

-
- ・ Vontu Network Prevent 機能はサポート対象外とさせて頂いております。
-
- ・ 複数台構成において ScannerOnly の機能を使用して 1 台の ControlCenter で集中管理する構成を日商エレクトロニクスが構築していない場合、保守サポートのご提供はいたしかねますのでご了承のほどお願い申し上げます。
 - 2007 年 10 月 10 日以前に上記構成で日商エレクトロニクスと保守契約をご締結のお客さまは引き続きサポートさせていただきます。
-
- ・ レピュテーション > 悪い送信者の「シマンテックグローバルの悪い送信者」を有効。
「SMTP 接続を拒否する」、「SMTP 接続を遅延する」を選択した場合、拒否や遅延以外の動作になる場合があります。
 - 動作説明経路:
MTA1⇒MTA2⇒SMG の経路で SMG へメールを送信した場合
 - MTA2 の IP アドレスが「シマンテックグローバルの悪い送信者」と判定された場合は拒否、遅延の動作を行います。
 - MTA1 の IP アドレスが「シマンテックグローバルの悪い送信者」と判定された場合はメールを一度受信している為に拒否、遅延の動作が出来ずに次の動作になります。
 - 拒否を選択している場合:メールが削除され受信者にメールが届きません。
 - 遅延を選択している場合:メールが削除され受信者にメールが届きません。また、送信者に対して以下のバウンスメールを送信します。
件名: Returned Mail
本文: I'm sorry to have to inform you that your message could not be delivered to one or more recipients. It's attached below.

For further assistance, please send mail to <postmaster>

If you do so, please include this problem report. You can delete your own text from the attached returned message.

This message has been blocked.

-
- ・ コマンドラインを使用してサービスを停止した場合に、管理画面からサービスを開始することが出来ません。
-
- ・ HTTPS で Control Center へアクセスする際には TLS1.0 が有効である必要があります。TLS1.0 が無効または SSLv2.0 と SSLv3.0 のみ有効の場合にはアクセスする事が出来ません。
-
- ・ FIPS モードはバックアップに含まれません。復元後は手動で変更する必要があります。
-

■ アップグレードについて

Software Update(ソフトウェアの更新)にて入手/適用可能です。

※ アップグレード後に自動で OS の再起動が行なわれます。

〈アップグレードの注意事項〉

- ・ アップグレードに伴い SMG から DestURL: swupdate.brightmail.com、DestPort 番号: 443(TCP)の通信が発生しますので、該当する通信をファイアウォール等で許可するようにして下さい。
- ・ アップグレード前にバックアップを作成してください。
- ・ アップグレード前にメールの受信をしないようにして各キューを解除(Flush)することを推奨します。
 - [管理] -> [設定] -> スキャナのホストをクリックする。
 - 「着信メッセージを受け入れない」を選択して保存をする。
 - アップグレード後は「通常どおりにメッセージを受け入れて配信する」を選択して、保存をしてください。
- ・ アップグレードを行う際には検疫メールを削除して頂く事を推奨しております。
 - 検疫メールを削除せずにアップグレードを実施した場合、完了までに数時間かかる場合があります、また正常に起動しない場合もございます。
- ・ 更新開始から完了まで、再ブートやシャットダウンを実行しないでください。
- ・ **Version10.0 にアップグレードを行うには Version8.0.3-11 にする必要があります。**
Version8.0.3-11 未満のバージョンから直接 Version10.0 にアップグレードはできませんのでご注意ください。
 - Version8.0.3-11 未満のバージョンをご利用いただいているユーザー様は、アップグレードを行う前に、8.0.3-11 リリースノートを参照ください。

〈Version8.0.3-11 リリースノート〉

<http://www.nissho-ele.co.jp/product/symantec/key/news/v80311mnote.pdf>

➤ Version 10.0 からのアップグレード方法

1-1. MTA サービスの停止

GUI にて SMG へログイン後に、管理 → ホスト → 設定 → LocalHost を開きます。
「着信メッセージを受け入れない」を選択し、保存をクリックします。

1-2. Mail Queue のフラッシュ

CLI にて下記コマンドを入力し Mail Queue のフラッシュを実施します。

```
>mta-control all flush
```

Mail Queue の確認は下記コマンドにて確認ができます。

```
> monitor mta
```

d_qmsgs: i_qmsgs: o_qmsgs: の数字が Queue の数になります。

1-3. Version10.0.2-4 へアップグレードの実施

GUI にて SMG へログイン後に管理 → バージョン → 更新を開きます。

10.0.2-4 はダウンロードパッケージのサイズが大きい為、インストール実行前にダウンロードをお願いします。更新バージョンにて 10.0.2-4 を選択後に説明の表示をクリックし、OK を押します。
その後、10.0.2-4 を選択し、ダウンロードのみをクリックし、ダウンロードを行います。ダウンロード完了後、インストールボタンを押し、アップグレードを行います。

※アップグレードの状況は、GUI 上で確認してください。

ネットワーク環境によりダウンロード完了までに数時間かかりますが途中で止めないようにご注意ください。

OS のダウンロード完了後に自動で機器の再起動が実施されます。

再機動後に全てのサービスが起動するまでに数時間かかる事がありますが、起動途中で電源を OFF にしないようにご注意ください。

1-4. 再起動後、CLI より下記のコマンドにてバージョンが 10.0.2-4 であることを確認してください。

```
>show --version
```

1-5. MTA サービスの起動

GUI にて SMG へログイン後に管理 → ホスト → 設定 → LocalHost を開きます。

「通常どおりにメッセージを受け入れて配信する」を選択し、保存をクリックします。

➤ Version 9.5 からのアップグレード方法

2-1.MTA サービスの停止

GUI にて SMG へログイン後に、管理 → ホスト → 設定 → LocalHost を開きます。
「着信メッセージを受け入れない」を選択し、保存をクリックします。

2-2. Mail Queue のフラッシュ

CLI にて下記コマンドを入力し Mail Queue のフラッシュを実施します。

```
>mta-control all flush
```

Mail Queue の確認は下記コマンドにて確認ができます。

```
> monitor mta
```

d_qmsgs: i_qmsgs: o_qmsgs: の数字が Queue の数になります。

2-3. Version10.0.2-4 へアップグレードの実施

GUI にて SMG へログイン後に管理 → バージョン → 更新を開きます。

10.0.2-4 はダウンロードパッケージのサイズが大きい為、インストール実行前にダウンロードをお願いします。更新バージョンにて 10.0.2-4 を選択後に説明の表示をクリックし、OK を押します。
その後、10.0.2-4 を選択し、ダウンロードのみをクリックし、ダウンロードを行います。ダウンロード完了後、インストールボタンを押し、アップグレードを行います。

※アップグレードの状況は、GUI 上で確認してください。

ネットワーク環境によりダウンロード完了までに数時間かかりますが途中で止めないようにご注意ください。

OS のダウンロード完了後に自動で機器の再起動が実施されます。

再機動後に全てのサービスが起動するまでに数時間かかる事がありますが、起動途中で電源を OFF にしないようにご注意ください。

2-4. 再起動後、CLI より下記のコマンドにてバージョンが 10.0.2-4 であることを確認してください。

```
>show --version
```

2-5. MTA サービスの起動

GUI にて SMG へログイン後に管理 → ホスト → 設定 → LocalHost を開きます。

「通常どおりにメッセージを受け入れて配信する」を選択し、保存をクリックします。

➤ Version 9.0 からのアップグレード方法

3-1.MTA サービスの停止

GUI にて SMG へログイン後に、管理 → ホスト → 設定 → LocalHost を開きます。
「着信メッセージを受け入れない」を選択し、保存をクリックします。

3-2. Mail Queue のフラッシュ

CLI にて下記コマンドを入力し Mail Queue のフラッシュを実施します。

```
>mta-control all flush
```

Mail Queue の確認は下記コマンドにて確認ができます。

```
>monitor mta
```

d_qmsgs: i_qmsgs: o_qmsgs: の数字が Queue の数になります。

3-3. Version10.0.2-4 へアップグレードの実施

※CLI でバージョンを指定してアップグレードをした場合、指定されたバージョンにアップグレードされず、最新バージョンまでアップグレードしてしまう不具合が確認されています。バージョンを指定する場合には、管理画面より実施します。

GUI にて SMG へログイン後に管理 → バージョン → 更新を開きます。

更新バージョンにて 10.0.2-4 を選択後に説明の表示をクリックし、OK を押します。

その後 10.0.2-4 を選択後に更新をクリックし、ダウンロードを行ないます。

ネットワーク環境によりダウンロード完了までに数時間かかりますが途中で止めないようにご注意ください。ファイルを事前にダウンロードする事は出来ません。

OS のダウンロード完了後に自動で機器の再起動が実施されます。

再起動後に全てのサービスが起動するまでに数時間かかる事がありますが、起動途中で電源を OFF にしないようにご注意ください。

3-4. 再起動後、CLI より下記のコマンドにてバージョンが 10.0.2-4 であることを確認してください。

```
>show --version
```

3-5 MTA サービスの起動

GUI にて SMG へログイン後に管理 → ホスト → 設定 → LocalHost を開きます。

「通常どおりにメッセージを受け入れて配信する」を選択し、保存をクリックします。

➤ Version8 からのアップグレード方法

4-1. MTA サービスの停止

GUIにて SMG へログイン後に(管理) → ホスト → 設定 → LocalHost を開きます。「着信メッセージを受け入れない」を選択し、保存をクリックします。

4-2. Mail Queue のフラッシュ

CLIにて下記コマンドを入力し Mail Queue のフラッシュを実施します。

```
>mta-control all flush
```

Mail Queue の確認は下記コマンドにて確認ができます。

```
>mta-stats
```

delivery_queued_msgs: inbound_queued_msgs: outbound_queued_msgs: の数字が Queue の数になります。

4-3. Control Center サービスの停止

CLIにて下記コマンドを入力し Control Center サービスを停止させます。

本操作実施後は GUIにてログインができなくなります。

```
> service controlcenter stop
```

4-4. Version の確認

CLIにて下記コマンドを入力し現在の Version を確認します。

現在の Version が 8.0.3-11 の場合は 3-8 へ、それ以外の場合は 3-5 に進みます。

```
>version
```

4-5. Version8.0.3-11 へアップグレードの実施

CLIの「install」コマンドにてアップグレードを行います。

```
> install 8.0.3-11
```

ネットワーク環境によりダウンロード完了までに数時間かかりますが途中で止めないようにご注意ください。

ダウンロード中に下記のエラーが表示された場合は再度 install コマンドにてアップグレードを実施してください。

```
E: Unable to fetch some archives, maybe run apt-get update or try with --fix-missing?
```

```
Fetches 152MB in 59m50s (42.3kB/s)
```

Err No such file or directory

OS のダウンロード完了後に自動で機器の再起動が実施されます。
再機動後に全てのサービスが起動するまでに数時間かかる事がありますが、起動途中で電源を OFF にしないようご注意ください。

4-6. 再起動後、CLI より下記のコマンドにてバージョンが 8.0.3-11 であることを確認してください。

```
>version
```

4-7. Control Center サービスの停止

CLI にて下記コマンドを入力し Control Center サービスを停止させます。

本操作実施後は GUI にてログインができなくなります。

```
> service controlcenter stop
```

4-8. Version10.0.2-4 へアップグレードの実施

CLI の「install」コマンドにてアップグレードを行います。

```
> install 10.0.2-4
```

ネットワーク環境によりダウンロード完了までに数時間かかりますが途中で止めないようにご注意ください。

ダウンロード中に下記のエラーが表示された場合は再度 install コマンドにてアップグレードを実施してください。

```
E: Unable to fetch some archives, maybe run apt-get update or try with --fix-missing?
```

```
Fetches 152MB in 59m50s (42.3kB/s)
```

```
Err No such file or directory
```

OS のダウンロード完了後に自動で機器の再起動が実施されます。
再機動後に全てのサービスが起動するまでに数時間かかる事がありますが、起動途中で電源を OFF にしないようご注意ください。

4-9. 再起動後、CLI より下記のコマンドにてバージョンが 10.0.2-4 であることを確認してください。

```
>show --version
```

4-10. MTA サービスの起動

GUI にて SMG へログイン後に管理 -> ホスト -> 設定 -> LocalHost を開きます。

「通常どおりにメッセージを受け入れて配信する」を選択し、保存をクリックします。

■ ダウングレードについて

CD リストア以外に方法は、ございません。

<参考: メーカーナレッジベース>

http://www.symantec.com/business/support/index?page=content&id=TECH83295&locale=ja_JP

■ 改訂履歴

2013/8/28 初版

以上